

す。

又人體に入り來るは其生活上正當の道なるか將た誤つて人體に入り來りたるかも不明なり最も普通の(嚴密に難き)條蟲生活史に照す時は幼蟲の寄生する動物即ち中間宿主は最終宿主の餌となるもの一般なるが如し若し此より推測する時は該條蟲の成體は人間の肉を食とする動物に寄生するか或は人體にありて幼蟲より漸々成體となるか若くは他の動物に寄生すべかりしものが誤つて人體に入り來りしか其何れなるか不明なり、左れば此幼蟲を以て動物試験をなすは最も吾人に取り興味多き事業なるが前回に於て猿に移殖せしも見るべき結果を得ず今回亦醫科大學に於て該幼蟲を猿の皮下に移殖せしに後若干もなくして猿は他の原因により斃死せしが故に此を解體せしに其體内に該幼體を發見したりと雖不幸猿の落命早かりし爲め望みの結果を得ざりしは最も遺憾とする處なり。

此が研究をなすに當り材料の採集患者につきての諸報告及研究指導につき多大の助力を興へられし飯島博士青山博士及碓井學士に對し茲に深厚なる謝意を表す。

圖 版 說 明

六

第一圖 蟲囊及蟲體諸種 自然大

第二圖 患者の背部より得たる筋肉片、蟲囊及蟲體を具ふ 自然大

第三圖 蟲囊及蟲體數種 自然大

第四圖 營養物質體 四百倍

第五圖 蟲囊の切面 囊中にあるは蟲體の斷面にて其内にある黒斑は營養物質體也 三百倍

● 日本産口脚類 (承前)

福田 卓

(明治四十二年一月二十八日受領)

GONODACTYLUS SPINOSOCARINA-

TUS n.sp. (第五版第二圖、雌四倍廓大、

第二圖は最後の二體節八倍廓大)

吻は幅広くして其中央の棘は鋭けれども先端眼柄の半に達せず前側方の棘も亦先端鋭し。

甲殻は弱く穹窿狀を呈し其長さは全長の五分の一、前縁の幅は長さの三分の二、後縁の幅は前縁の幅より僅かに

大なり各角は圓みを帶び後縁は略々直線狀をなすも前側角附近は前方に突出せり。

露出せる胸部及び腹部の各節は強く穹窿狀を呈し且長し。胸部第五節は兩側に至るに従ひて微かに狭まり第六第七の兩節の左右縁は剪狀を呈し第八節は兩側に鈍突起を出す。腹部第一節乃至第五節は順次後方に至るに従ひて其長さを増加し、背面は平滑兩側に隆起線を具ふ、後側角は總て圓みを帶び後方に突出せず。第六節の長さは略々第二節の長さに等しく六個の稍不規則なる縦隆起線を有し其間の部分は表面平坦ならず。六個の隆起線の中間中央隆起線は互ひに平行し其幅弘し、中間隆起線は之に對して稍斜に後方開けるが如く位置し其先端は後縁に及ばず、側部隆起線は中間隆起線と略々平行なり。各隆起線は後端に棘を缺く。

尾部は其長さ稍幅に優る最大の長さは全長の十五分の二にして其厚さは幅の半を過ぎたり、全背面は亞中央棘を除くの外全く九個の幅弘き隆起線にて蔽はる、就中中央にあるものは最幅廣く其中央線に近き部分は平滑として

兩側には小棘を生ず此隆起線は後端中央の切れ込みの部に達すれども他の者は之れに達せずして終れり。

次の三對は其幅殆んど相等しく其の中内側の二對は後端に於て相連絡せり、邊緣に位する一對は最幅狭くして且他の者より短し、各隆起線は其中央部を除くの外其表面に小さき棘を列生せり但し邊緣に位するものと之れに隣る一對の外側には此棘を缺く、隆起線の後端には又斜に後方に向へる小棘二三を有す。

尾部の邊緣は各側各々三裂せし一見したる所にては單一なるが如く見ゆ、其最外方に位するものは縁部の隆起線の續き中間にあるものは縁部隆起線に隣れるものの終端、最中央に近く位するものは即ち亞中央棘にして其先端には上方に向ふ動棘を具へ扁平にして表面に隆起線を缺く後端は大なる三角形の切れ込みとなり其兩縁には左右各十三個許の小棘齒列生す、なほ亞中央棘の外側にも亦一小棘を生せり。

尾脚基節の表面には終端の棘の外三四の小棘を被れり、外方の突起は幅弘く扁平にして内方に屈曲し内縁基部に

日本産口脚類(福田)

齒を缺く内方に位する者は略々真直にして鋭し。外肢第一節邊緣の動棘は其數五六就中基部に近き二三は細くして屈曲せず互ひに若干の距離を隔てて生ぜるも殘餘のものとは太く扁平にして前方に向ひて屈曲せり、此等は後方の者次第に形小なり。第二節は第一節の中央部背面に關接す、内肢は稍外方に屈曲せり。

二對の觸角は小、其長さは略々相等しく葉狀附器は其長さ遙かに眼の長さに及ばず。

捕脚手節の基部内縁に五個乃至七個位の小棘を列生す。色、アルコール漬標本にありては捕脚指節と尾脚邊緣の動棘の淡紅色を帯ぶるものの外特記すべきものなし。

産地、相模城ヶ島(雌二、一五—二八・五ミメ)

三、ODONTODACTYLUS Bigelow.

腹部第六節は尾部と癒合せず、露出せる胸部及腹部背面は緩に穹窿狀を呈す捕脚の指節は其基部膨れ側齒を具ふ吻は多少三角形をなすも棘を有せず、尾部は次の *Pentamerus* に類似し亞中央棘と間棘との間の棘齒は通常二個を超えず。

ODONTODACTYLUS JAPONICUS (de Haan)

(第二版第一圖、雌自然大、第四版第一圖)

左の捕脚、自然大)

吻は稍正三角形を呈し先端僅かに尖り強く下方に向ひて屈曲す兩縁は少しく内方に向ひ彎入せり。

甲殻は平滑長さは全長の約五分の一、前縁の幅は長さの五分の三、後縁の幅は長さに略々相等しく前後兩縁は直線狀、左右兩縁は少しく内方に彎入し前側角後側角共に圓みを帯ぶ、胃溝は明瞭なれども淺し。

胸部第五節は兩側に至るに従ひて狭くなれども兩側に突出せず、第六節第七節は兩側に先端圓みを帯びて突出せり。

第一乃至第五腹部環節は背面平滑兩側には邊緣に沿ひて顯著ならざる隆起あれども後角は圓みを帯びて棘に終らず、第六節は縦に走る多くの隆起線あり、就中中央線上のものは低くして微かなり、他の四對の中、中央より第二對のもの外は棘に終るを常とす而して中央より第三對の者の棘を除くの外は其先端後縁を超ゆ、元と第四對の

ものとの間の基部には圓き高まりあり。

尾部の長さは全長の七分の一位幅は之より少しく大なり中央に高き隆起線あり基部に近く中斷せられ先端棘に終る、此外尙數對の隆起線あり、最も中央に近きものは兩端中央線上の者に近く起り弧狀をなす此外側に接して不規則波線狀をなすものあり、次は斜に亞中央棘上に及ぶもの第四對は低くして間棘の内側にある棘齒上に亘るものなり。第二第三及第三第四對の間には夫々基部に一個の小突起を有す。邊緣の棘中亞中央棘は幅弘くして先端に動棘を具へ縦に前記の隆起線の外なほ二條の隆起線あり動棘より中央線に至る迄は十數個の小棘齒列生す。これと間棘との間には二條の隆起線を有する棘齒ありて先端に一小動棘を具へ間棘との間に更に又小さき棘齒を挟む間棘及側棘の表面には各二條の隆起線あり兩棘の間には微細なる棘齒を具有す。

尾脚の基節の表面には不規則なる溝あり、二個の突起中外方の者は幅廣く且長くして先端稍外肢第一節を超ゆ、内方の者は長さ之の半に及ばず、外肢第一節邊緣の動棘

日本産口脚類(福田)

は其數十二三幅弘くして長く先端鈍くして長く先端鈍くして相重る第二節は第一節より短く、内肢表面には稍不規則なる縦溝あり、長さは幅の二倍半位なり。眼は球狀、第二觸角の葉狀附器は其長さ略々甲殼の長さ等に等しく幅は長さの三分の一に近し。

捕脚指節は基部膨れ内縁に五乃至七個の側齒を有す。

產地、安房館山(雌一)、相模灘(雄一雌二)(大さ一〇六—五一ミメ)。

分布、支那海。

四、PSEUDOSQUILLA (Guérin).

腹部第六節は尾部と癒合せず、露出せる胸部及腹部は平滑穹隆狀を呈し且狭し、捕脚の指節は其基部膨れずして側齒は三個を超ゆる事なく時としては全く之を缺く、尾部の亞中央棘は長くして可動、之と間棘との間の棘齒は通常一多くとも四個を超ゆる事無し。

PSEUDOSQUILLA CITIATA Miers.

(第二版第四圖、雌、自然大)

吻は其長さ幅の三分の四倍位を算し平滑なり、

甲殻は平滑其長さは全長の四分の一位、前縁の幅は長さの五分の三、後縁の幅は長さに略等しく各角は共に圓みを帶ぶ、胃溝は直線狀頸溝はなし。

胸部第五節は一部分甲殻の下より現はる、左右兩縁は第六節は剪狀第七節は稍圓みを帶び第八節は尖れり。

腹部第一乃至第四節の後側角は順次に銳角狀となるの傾向あれども棘となるに至らざるを常とす、第五節の後側角は短棘となれり、第六節は三對の棘を具ふ、中央より第一對は略々互に平行し、第二對は短くして後縁に達せず第三對は其内側基部に一小扁突起あり。

尾部の長さは全長の七分の一基部に於ける幅は稍之より大なり、中央線の隆起は強くして先端棘に終る之を挟みて稍斜めに走る(後方に閉づ)著しからざる隆起線一對あり、次に又中央の隆起線に對して後方に開ける如く位置せる隆起線あり、之と左右兩縁に於て前縁に近き邊より起り側棘の基部に到る他の隆起線との間は兩側より次第に低くなれり、後者の基部内側には又一小齒を具ふ。邊緣にある棘の中亞中央棘は最長く可動なるも他の二棘は不

動にして且短し、亞中央棘の根本は一部分少しく高まれり、間棘と側棘とは略同大なれども其先端は側棘の少しく閉づるに反し間棘は稍開く、亞中央棘と間棘との間には圓き小齒を有す、此齒の外側に又小さき齒一二及間棘と側棘との間にも小齒一あれども此等は肉眼にては見難し。尾脚基節の突起の長さは互に相等しきか又は内方の者少しく外方のものより長し、外肢第一節邊緣の動棘は九個位なり。

眼を擔へる節は吻に蔽はる、觸角は短く捕脚手節の根元には三個の動棘あり、指節は二個の細長き側齒を具ふ、色、アルコール漬標本にありては全部一樣の淡褐色、所々に黒き斑紋あり殊に胸部第六節腹部第一節及尾部の背面兩側に近き所にある者最顯著なり、尙捕節手節等は淡紅色を帶ぶ。

產地、小笠原父島二見港(雌二、四七、一六四ミメ)、弘田理學士、關口氏)

分布、大平洋、印度洋、紅海、モロッシアス島、西印度等。

五、LYSIOSQUILLIA Dana.

腹部第六節は尾部と癒合せず露出せる胸部及腹部は扁たくして広く相關接し且其幅弘し、捕脚の指節の基部は膨れず側齒は五個より少なからず、尾部は其幅通常長さより大なり亞中央棘と間棘との間の棘齒は四個より多からず只一個なる事も稀ならず、尾脚基部の突起は通常其外方のもの内方の者よりも長し。

LYSIOSQUILLIA ACANTHOCARPUS (Gray.)

(第一版第三圖、雄三倍廓大、第二版第三圖
左の捕脚、六倍廓大、腕節、山手節、指節)

吻は多少方形長さは甲殼の長さの五分の二幅は之より少しく大なり、前側隅は稍角張り前方には三角形の扁平なる銳棘を具ふ左右兩縁は微に彎入せり。

甲殼の長さと其最大の幅とは略相等しく全長の六分の一許前縁の幅は最大の幅の五分の四を算す。胃溝は略相平行し各角は共に圓みを帶ぶ。

胸部の左右兩縁は第五節にては稍狭くなり第六節以下にありては圓みを帶ぶ。

日本産口脚類(福田)

腹部の第一乃至第五節は其幅殆んど相等しく第六節は之より狭くして其前側角には後方に向つて強く屈曲せる長さ銳棘あり後側角にも亦後方に向ふ銳棘を具ふ。

尾部の長さは全長の十五分の一幅は之に二倍し後縁に近く五個の銳棘横に羅列せり邊緣の銳棘三對の中側棘の外は先端多少上方に向ひ且亞中央棘のみは動棘なり其間の棘齒は 1, 2, 5, 12.

尾脚基部突起は其外方の者内方の者の五分の四位の長さを有し外肢第一は第二節より小邊緣の動棘の數は六個内外なり。

眼は小、全體圓柱狀、第一觸角を擔ふ節には前且少しく外方に向へる一對の銳棘を有す其先端は殆んど眼の角膜部に達せり。葉狀附器は小、長さは甲殼の長さの半に達せず捕脚腕節の前側には一個の小棘、手節基部の内縁には四個の動棘あり最基部に近きもの最長し指節の棘は終端の者を加へて六個、細長にして基部より算へて第五の者は第四及終端の者より短し。

歩脚の附屬肢は幅弘く第一對及第二對に於ては圓形に近

く第三對の者は稍幅狭く紐狀なり。

色、アルコール漬標本にては全體帯白色にして所々に暗黒色の小點集合して斑條をなす、尾脚内肢及外肢第一節も亦暗黒なり。

産地、安房館山灣(雄一、三〇ミメ、)

分布、オーストラリア、ニューギニー、ペナン、セイロン等。

LYSIOSQUILLA MACULATA (Fabricius).

(第一版第四圖、雌、二分一倍、第五版第三圖雌右の捕脚指節、自然大)

吻の長さは其幅と略々相等しく甲殻の長さの五分の一を算す、半圓形平坦にして中央に隆起線を具ふる突起を生ぜり。

甲殻は兩側に近き所稍膜狀長さは全長の五分の一、各角は共に圓みを帯び後縁は強く弧狀をなして彎入せり、胃溝は明瞭なるも頸溝は淺し。

露出せる胸部及腹部は背面平滑、胸部の終り三節は順次に其幅を増加すれども兩側には殆んど突起する事なし。

腹部の第一乃至第五節は其の幅略々相等しく各角は棘をなさず。第六節の左右兩縁は後方に閉ぢ之れに平行して細き縦溝を見る、後側角は鈍くして殆んど棘の形を爲さず。

尾部は長さ全長の七分の一は其五分の七、中央の隆起は低くして棘に終らず、邊緣の三對の棘の中外方の二對は稍鋭くして大なり。

尾脚基節の突起は共に甚強硬にして且長く外肢第一節は短くして終端の上面凹み邊緣の動棘は其の數八個内外なり。眼は大にして三角形を呈す、第一觸角には扁平なる隆起を具へ之を擔ふ節には屈曲せる扁平の棘一對あり其先端は鋭くして前方に向ふ。葉狀附器は其長さ甲殻の長さの三分の二幅は長さの五分の二内外なり。

捕脚手節基部には四個の長さ動棘あり指節には先端の棘を合せて九個又は十個の鋭齒を具ふ、歩脚の附屬肢は細長にして線狀なり。

色 アルコール漬標本にありては全體黃褐色之に紫黒色の條斑甲殻に三條、胸部第六乃至第八節及腹部第六節の

後縁、腹部第一乃至第五節の前後兩縁に各一條宛あり。

尾部、尾脚、捕脚、歩脚等にも亦同色の部分あり。

産地、琉球? (雌一、一七五ミメ)

分布、太平洋、印度洋。

附記、Miers, Brooks, Bigelow, Borradaile 諸氏は此種の雌

雄の間に著しき差違の點の存するを認む、即ち氏等の標本の雌に於ては捕脚指節の齒は雄の鋭くして且長きに反して著しく短く殊に其基部に近きものにては小さき突起となれるに過ぎずと云へり。然れども此標本にては其雌なるに係らず其指節は却つて氏等の記載或は描寫せる雄の者に近し、是れ或は此標本の未だ充分成長せざるに因るなるべきか、因に充分生長したるものは其長さ尺を越ゆと云ふ。第五版第三圖は此標本の捕脚節の圖なり。

LYSIOSQUILLA GRASSISPINOSA n. sp.

(第五版第四圖、雌、二分の一、第四圖 a)

雌の生殖門、自然大)

吻は長三角形前端に銳棘を具ふ。

甲殼の長さは全長の六分の一、最大の幅は長さの三分の

四倍を算す、平滑にして胃溝は明瞭後方に開き頸溝は微かなり。前縁は略々直線狀後縁は彎入し各角は圓みを帯びて棘を備へず。左右兩縁に近き所は下方に彎曲せるが故に背面より邊緣を見る事難し之に沿ひ全長に亘りて淺き一條の凹線を刻す。

胸部の環節中最後の二節は側縁に接して不明瞭なる隆起線を具ふ第六節の側縁は扁平なる三角形の棘を有し第七節に於ては左右に突起して其先端に短き銳棘あり。

腹部の環節は總て其後側角に銳棘を具へ前縁に沿ひて強凹刻あり、其初めの二節は側部に不明瞭なる隆起線を有す。第六節には低き亞中央棘あり少しく後方に閉づるが如く位置し其後端の棘は後縁に達せず、第五節の後縁附近の一部及び第六節の全背面は不規則なる粟粒起に蔽はる。

尾部は其長さ全長の六分の一餘、其最大の幅の七分の五を算す、中央の隆起線は低くして廣く後端短棘に終る。

後縁には太く強き棘八個ありて其表面は多くの小孔にて蔽はれ各短き棘其終端に關接せり。中央の切込みには其

邊緣に少なき棘齒を列生す。尾部背面は中史の隆起と邊緣の棘とを除くの外、亦不規則なる粟粒起を被る。

尾脚基節には其終端に屈曲せる銳棘を具へ之より後には亦若干の粟粒起あり。突起の中内方のものは外方の者に比して遙かに長く且幅廣し、外肢の二節は其長さ略相等しく第一節には十一個許の動棘あり其中終の二三は先端鈍し。第二節の表面には強き凹凸を見る。内肢の表面も亦不規則に彫刻せられたり。

眼は斜に前方に向て角膜部は略球形中央縊れず、其軸と眼柄軸とは後者の内方に於て銳角を挟む。

眼を擔ふ節は全く吻に蔽はる、第一觸角は其基節扁平にして幅廣くなれり。

捕脚の腕節は前側に二個の銳棘あり、手節内縁は櫛狀齒以外に十個或は十一個の棘關接にて接するものを具ふ。

なほ基部に二個の大なる動棘あり。指節には終端の者を合せて十個の彎曲せる長き齒あり終端の者は他の者に比して遙かに長く且強く屈曲せり。歩脚の附屬肢は線狀終端少しく扁平となれり。

雌の生殖門は第四圖 a に示せるが如く稍特異の構造あり。

産地、相模灘(雌、一、二九七ミメ、)

前回正誤の主なるもの

頁	段	行	誤	正
一	下	一五	第版第圖	第三版第二圖
二	上	六	第三版	第二版
二	上	六	第三版	第二版
六	上	一八	及各節	及腹部各節
六	下	一二	Fabrigitus	(Fabrigitus)
七	上	一四	間	其
七	上	一四	外	方
七	下	一三	六ミメ	六一ミメ
七	下	一四	TACTYLUS	DACTYLUS
八	上	一八	線	棘
八	下		分布の前に (二九 四一・五ミメ) を脱す	

● 岐阜産魚類豫報

理學士 田中茂穂

(明治四十二年一月三十一日受領)

爰に報告せんとするは岐阜縣廳の所藏に係り、同地物産